



長尾 義和

### 一、地域創生の取り組みを聞く 二、なぜ、能勢高校への進学率は、低いのか？

#### 地域創生の取り組みを聞く

**問** 「まち・ひと・しごと創生法案」が、11月21日に成立した。

**答** 少子高齢化に伴う人口の減少に歯止めをかけ、一極集中を是正し、地方の「まち・ひと・しごと」を創生することを目的とした法律であるが、今町としてどのような施策を考えているのか。

**答** 能勢町版「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に取り組み、人口動態等の分析を行い、人口減少克服に向けた施策を具体化していく。

**問** 既に、国へアクションを起こしていることはあるのか。

**答** 日本版シティーマネージャー（国家公務員等の派遣）制度があるが、11月26日付けで、希望を出した。ヒアリングを経て、2月下旬に内定がある。

**問** 町長就任当初は、国府とのパイプを強くしたため、府から副町長を招きたいと言われていたが。

**答** 府とも話をし、この制度により、能勢町の創生という意味で国とのパイプを作っていきたいと考えた。

**問** 派遣希望には、どのようなポスト、業務内容を計画しているのか。

**答** 副町長として、町政全般の職務と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定、実施について考えている。

**問** プロパー（町職員等）の副町長も必要と考えるが。

**答** 財政的なこともあり、厳しい。

#### なぜ、能勢高校への進学率は、低いのか？

**問** 本町の教育は、小中高一貫教育を基に、連携型中高一貫教育を推進してきたが、その本質は何か。

**答** 12年間のスパンで教育が行われ、生涯を通して学びが循環する社会の基となるものを築いていくことが、小中高一貫教育の本質と考えている。

**問** 能勢高校への進学率が低迷している要因は何か。

**答** 高校の教育に対し、保護者に理解を示していただく必要がある。

**問** 小中高一貫教育の取り組み成果が出ていないのではないか。

**答** 子どもたちが行ってみたい。保護者が行かせたい。町にある高校であるので、中学校、高校はもとより関係者と連携し、取り組みを進めたい。

「議会における答弁について」は、紙面の都合上、割愛しました。



福中 満

### 一、消防常備化について 二、鳥獣害対策について

#### 消防常備化について

**問** 平成27年4月から、従来の庁舎に豊中市消防本部能勢分署（仮称）が開設され、新たな消防・救急体制がスタートする。今までと何がどう変わるのか。

**答** 救急は今まで「1隊」であったのが、新しく救急車も増え「2隊運用」も可能となる。出動中に救急要請が重なったときには他市町に搬送を依頼するという問題もほとんど解消される。

**問** 消防では、新規に消防車が配備され、消防常備化が実現する。火災通報時の迅速な出動態勢や高機能な備えた作業車等により、火災等への対応力は大きく改善される。

また消防事務としての危険物・施設の安全管理指導や査察、火災予防啓発活動等もより充実した業務が推進される。

業務が推進される。

能勢町消防団の活動については従来と大きく変わることはないが、今後豊中市消防本部・能勢町役場との三者協議の場が設置され、相互の連携・協力体制等について検討が進められる。

**問** イノシシ・シカ等による農作物等の被害を減らしていくための今後の対策について

#### 鳥獣害対策について

**答** イノシシ・シカ等の捕獲数の年間目標については、大阪府の計画で示されており、平成26年度はイノシシ250頭、シカ200頭であった。

「わな」による捕獲については、現在会員41名によって141基の「はこわな」が設置され捕獲活動が行われている。地方によっては「くくりわな」を中心として捕獲を行っている所もあるが、能勢町では人身事故も配慮し、積極的な取り組みは行っていない。

現在捕獲後の処理が大きな課題になっている。今はほとんどが埋設処理されているが、埋設場所や処理方法など問題点も多く、会員の捕獲意欲を阻害する要因にもなっている。国崎クリーンセンターで焼却処理できるようにはしてほしいという要望もあったが、現状では処分できない状況にある。捕獲に対する報奨金については、今後国の補助金制度の活用等も含めてより充実したものになるよう検討していきたい。

役場内に鳥獣害対策の専門職員等を設けてほしいという要望もあるが、現状では困難と考える。